

灯ろう流し

昔も今も先祖の供養と魂を送り、
灯ろうに願を込めてせせらぎに流す



8月20日（日）前日のゲリラ豪雨で心配された灯ろう流しは、身近な夏の風物詩として今年も、多くの方の参加を頂きました。又、せせらぎ灯ろう流しは、10回を重ね定着し、各方面からの取材報道がありました。川面を幻想的な雰囲気の中、手に取る目線でカメラのフラッシュがたかれています。

森とせせらぎネットワーク 第10回灯ろう流し

稲本文雄

森とせせらぎネットワークでは「第10回灯ろう流し」を平成29年8月20日（日）予定通り6時より開催いたしました。危ぶまれた天候も、皆の願いが叶い、風もない穏やかな夕べとなり、三々五々集まった人たちがいつの間にか遊歩道はいっぱいになっていました。受付を済ました子供たちは、昔のお嬢様達の優しい指導で熱心に色添えをしたり、願い事を書いたりしていました。灯ろう流しは本来であればお盆のさ中に開催し、子供たちに、「ご先祖との「いのち」の繋がりを感じ取り、頂いた命への感謝、世界の平和、将来への夢



灯ろうがスムーズ流れる様にと稲本氏

などを願い、心を込めて灯籠を組み立て、流してほしい処ですが、ここで生まれ育った子供たちの親の殆どは、故郷があり、長期休暇ともなれば子供を連れてわが故郷へと帰って行きます。そこで、親御さんの計画の邪魔にならない様、毎年お盆の前にしようか、後にしようかと迷った結果の開催日が、今年は20日になりました。それでも、この都会の片隅の町、橋地区の子供たちが大人になったある日「自分たちの心の故郷」がここに在ることに気づき、私たちの活動を引き継いでくれる事を信じて、この活動を続けて行きたいと思っています。

夕方、6時の開会あいさつは、私たちが催し事をする時には、参加者が交通事故にあわない様いつも見守ってくれている、菊池交通部長が急遽当られました。挨拶が終わり、いよいよひとみ座の乙女文楽が始まると、東屋の周りには何が始まったんだろうと見



静かにゆらゆらと神秘的な光を放ちながら、流れゆく灯ろうをながめ、大人はご先祖に、或いは無き親兄弟に祈り、子供たちは自分の作った灯ろうに願いとお願いを込め神妙に流れを見つめていた。灯ろうの回収に忙しく、気が付けば静けさが戻り賑やかだった遊歩道に、人がまばらになっていました。午後8時、近隣の皆様にお声かけ、ご迷惑を謝し今年の灯ろう流しは終了致しました。来年またお会いいたしましょう！

手伝わってもらえば、子供たちでも流せられそうです。来年要検討としていきます。計らいで、明かりがつき、より安全になりました。今年は係の人が流しました。安全が確認されたので、流し具を使って親御さんに

報道機関

- ▼東京新聞朝刊川崎版8月13日
- ▼神奈川新聞
- ▼当日は、イツコム社 地デジ11chにて放映



取材の報道カメラに笑顔で応じるお親子さん

森とせせらぎネットワーク主催
【灯ろう流し】
こころ込めて灯ろう流しのキット作り



灯ろう流し責任者の竹村トシ子さんとお孫さん（会場にて）

夕闇の中をたゆたう光。子ども達が思い思いに彩色し、願い事を書いた灯ろうをそっと流れにのせる。

東京新聞より一部抜粋転載

中原区と高津区にまたがって流れる「江川せせらぎ遊歩道」の晩夏の風物詩となった灯ろう流しが20日（日）に行われる。二〇〇三年に完成した遊歩道は、JR武蔵新城下車徒歩三分位の新城公園を起点として江川と矢上の合流までの間約二・四kmには魅る快適空間として「湧水の小径」「せせらぎ広場」「清流の道」等にテーマを設定してあり楽しめる。

サクラ、フジ、百日紅など四季の花が咲き、せせらぎには鯉、フナ、等の魚が泳いで初夏にはカルガモの親子が泳ぐ。魚取りやザリガニ釣りを楽しむ子ども達の姿も。安心して快適な遊歩道には、朝早くからグループ仲間やジョッキンギ姿の皆さんが楽しんでいる。

灯ろう流しの責任者を務める竹村トシ子さん（八〇才）は、特別な思い出がある。小学校の夏、疎開先の千葉県船橋市で、学校帰りに機関銃掃射に遭った。攻撃音ややみ伏せていた地面から顔を上げると、一緒に歩いていた友人の多くが亡くなっていった。「あの時の恐怖恐ろしさ誰が死んだかも覚えていない」。戦死者の霊を慰める燈籠を川面に浮かべる時代には、二度とならぬよう願いを込める。せせらぎネットワーク事務局長の田辺勝義氏は、灯ろう流しの他に夏の七夕、秋の「森とせせらぎ祭り」等を企画。管理棟でも（小関橋）絵手紙や写真展の展示掲載してこころの安らぎと活動の一環を是非、足を止めて見て頂きたい。「都会に復活した自然を子どもたちのふるさとにしたい」と語る。

創造に夢を膨らませて一人でもこの楽しさを味わって頂きたいです。

せせらぎの折り紙、切り絵教室の作品を毎年五月に発表展示の場を頂いておりとても感謝しております。折り紙の作品も季節ごとに、毎年新しい折り方を勉強し、新たな切り絵に於いては、とても細かな物へとチャレンジし、またバラの折り紙から一変し、ブローチに姿を変え、母の胸に、友達へのプレゼントに好評でした。

折り紙、切り絵の第一人者 仲村京子さん

毎年新しい折り方を勉強し新たな物へとチャレンジする！



折り紙、切り絵の教室で、皆さんと共に勉強をさせていただいております。日常生活の合い間に、気軽に思いついたイメージや構想をステップアップとなる様勉強中です。



く、繊細な作業を根気よく切り、その後、複雑な色づけをして、紙質により深みもまして、芸術的な仕上がりを目指します。完成品には、この上ない満足感にひたれます。

常に新しいアイデア、作品の中に自分をおくこと、なりきることに心掛けています。

お子様達にも興味を持って！

今年は、初めてアンパンマンなどのキャラクターにも挑戦してみました。お子様達にも興味を持ってもらい、折り紙の楽しさを知ってもらえたらと思いい展示了ました。次回も楽しめる作品を作るよう心掛

けてまいります。これからもよろしくお願ひします。



生徒さんの作品より素晴らしいと毎回好評です。



晩秋の東北、たわわと実った柿と民家の構図が表現出来ました。



私の健康法 投稿原稿

町会の理事、社交ダンスの講師、山登り、そして森とせせらぎネット会幹事と多忙な毎日をごさされている須山三枝子の「私の健康法」を紹介いたします。

健康の源は、よく歩く事です！昨年よりハイキング・トレッキング・山登りに汗を流しています。5月12日、箱根ハイキング名所散策の予定でしたが駒ヶ岳ロープウェイは動いていませんが、噴火の影響で山頂よりウォーキングが



出来ず急遽金時山に登る事になりました。(写真、下山してパチリ)新緑の香りが気持ちよく山頂でのお昼弁当は、格別に美味しく食べられました。下山して途中の健康ランドで疲れをとり、反省会での生ビールの喉ごし美味しいこと。6月下旬から7月中旬に、大菩薩峠トレッキング予定があります。稜線から見る富士山とコース両脇に咲く数々の植物を余裕をもって眺められるよう日々、足腰を鍛えています。また、40年も続けている社交ダンスの趣味で健康維持を。社団法人日本ダンススポーツ連盟に登録して、各競技会にも出場してましたが今は、楽しみながら誰でも踊れるモダン・ラテンダンスを毎週土曜日に練習しています。

せせらぎ物語 第8話

美しい景観の創造と防火機能も持つせせらぎへ

田辺勝義

市の「基本計画」が優れたものであることは前号で紹介しましたが、1995年に阪神淡路大震災が起こり、担当者の大川さんが現地を視察をしました。

その中で彼らは、樹林地が住宅地の延焼を防ぐことに加えて、せせらぎを初期防火用水に使えることを学び、すぐ「基本計画」に具体化しました。せせらぎ水路に架かる全ての橋に細長いベンチのような箱がありますが、それは流れをせき止める渡し板です。これはいわゆる消火栓がダメになっても消火活動ができるのです。

「緑道計画」は市と市民の努力で改良されていきました。江川の会は、周囲の環境に合う景観を作るよう要請していました。これは、

小松川境川親水緑道、港北ニュータウン緑道公園、府中緑道公園の見学会や川崎市環境審議委員(当時、現委員長)の石川幹子氏(千葉大学講師、当時)を招いての「緑と防災の街づくり」や東京江戸川区職員で緑道づくりに携わっていた今泉博文氏のお話などから学んだことを「水と緑の潤いある景観づくり」として纏めた根拠あるものだったので、行政をも説得することができたのです。

幸いにも、川崎市は市民の声を聞く耳を持ち、江川の会の要請に対応して付加・修正する能力を持っていました。川崎市は「緑道計画」の景観イメージを豊かにし、ソーゴに「都市内の水辺空間」「桜並木を生かした生活道路」「自然あふれる散歩道」「自然と共生する散歩道」という構想でせせらぎ遊歩道を作るとしました。そして、それは全体の「見直し計画」に「江川水路計画の実現」として盛り込まれ、1996年ころより「実施計画」づくりから工事着手へと進んでいくのです。

次号に続く